

都道府県学習「埼玉県を紹介しよう」

埼玉県 公立中学校教諭

1 はじめに

「地域の規模に応じた調査」は、地域の特徴をとらえる視点や方法が地域の規模に応じて異なることに注目して、「身近な地域」「都道府県」「世界の国々」の三つの規模の地域を取り上げることを通して、地域の特徴を追究する学習である。この単元のねらいは、調査活動を通して、自らの力で地域の特徴をとらえる調べ方、学び方を身につけさせることである。そこで、三つの規模の異なる地域を互に関連づけて、系統的に学習するプランを紹介する。

2 地域の規模に応じた学習の系統性

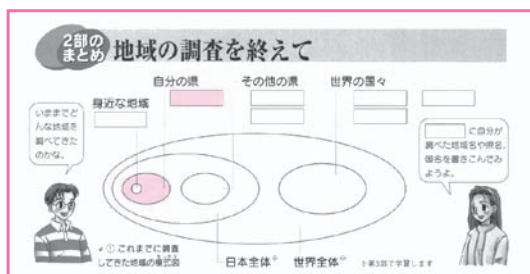
単元の学習のガイダンス時に、教科書p.40とp.130の図を活用して、地域の規模に応じた学習の概観を系統的に学習する。概要は、以下の通りである。

図表1 さまざまな地域の調査のステップ



帝国書院『中学生の地理(初訂版)』p.40 *平成18年度用

図表2 地域の調査の規模の概観



帝国書院『中学生の地理(初訂版)』p.130 *平成18年度用

まず、「身近な地域」の学習では、小学校3・4年生の地域学習の成果を生かし、観察や現地調査などのフィールドワークを主体として、学習を展開する。

次に、「都道府県」の学習では、学習範囲を広げ、最初に、学校所在地の「埼玉県」を学習する。既習の「身近な地域」の学習を生かし、市町村役場や都道府県庁などの諸機関で入手する資料が主体となる。続いて、本校では、「長崎県」と「宮城県」の学習に進む。ここでは、視野を日本全国に広げながら都道府県規模の地域の特徴をとらえる学習を展開する。そして、県立・市町村立図書館などや電話・ファックス・インターネットなどにより、全国規模の統計資料を活用した学習が主体となる。

その次に、「世界の国々」の学習では、視野をさらに広げ、地球的な国家規模の地域の特徴をとらえる学習を展開する。本校では、「アメリカ合衆国」と「マレーシア」、「ドイツ」の学習に進む。ここでは、地勢図や衛星画像、写真、ビデオ、統計資料、紀行文、観光パンフレットなどを資料として活用する。そして、県立や市町村立図書館、外国大使館、旅行会社などからの国規模の資料を活用した学習が主体となる。

さて、「都道府県」の学習の具体的な系統性についてのポイントを押さえたい。まず、各都道府県の学習において共通に学ぶ内容は、日本全図や衛星写真・地方地図などからの概観と、シンボル(県章・花・鳥・木など)、面積・人口・人口密度である。「埼玉県」の学習では、埼玉県に関する資料を収集し、特色を表すキーワードを書き出し、分野別にグルーピングする学習活動を展開する。そして、まとめをイラストマップで表現することとする。次に、「長崎県」の学習では、統計資料を手がかりにして、「長崎県」の特色をみつけて、まとめを旅行計画で表現することとする。その次に、「宮城県」の学習では、地図帳の土地利用図を手がかりにして、「宮城県」の特色をみつけて、ま

めを地理新聞で表現するという「地域の規模に応じた調査」の系統性を重視した指導計画を立案する。

3 多様な特色をつかみ・表現する学習活動

(1) 単元のねらい (埼玉県)

- ① 都道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法を、身につけさせる。
- ② 埼玉県を調べるための課題を設定させ、その課題を環境条件や人々の営みなどと関連づけて多面的・多角的に考察させる。
- ③ 埼玉県に対する関心を高め、地理的事象を基にして設定した課題を意欲的に追究させ、地理的特色をとらえようとする態度を養う。
- ④ 地図や統計その他の資料を収集させ、適切に選択し活用させると共に、追究し考察した過程や結果をまとめさせ、発表させる。
- ⑤ 埼玉県の地域的特色をまとめる視点や方法を理解させ、知識として身につけさせる。

(2) 学習計画

「埼玉県」の学習では、以下のような指導計画を立て、9時間をかけて学習を展開していく。

図表3 「埼玉県」の指導計画

時間	学習活動
1	都道府県の調べ方のガイダンス 小学校の既習事項の確認 日本全図・衛星写真・地方地図からの概観
2	埼玉県のシンボル (県章・花・鳥・木など) 埼玉県の特色を表す資料の収集
3	キーワードの選定と分野別のグルーピング
4	調査の視点と調査方法、まとめ方を定めた学習計画の作成
5	調査活動 (分野別の資料収集) ①
6	調査活動 (分野別の資料収集) ②
7	調査のまとめ (ポスターに表現) ①
8	調査のまとめ (ポスターに表現) ②
9	発表会 (ポスターコンテスト)

(3) 学習ガイダンス

第1時には、教科書p.56を参考にして、都道府県の調べ方のガイダンスを行う。特に、六つのステップの段階的な学習過程を概観する。

<ステップ1> 調べる都道府県の決定

<ステップ2> 都道府県の特徴を概観

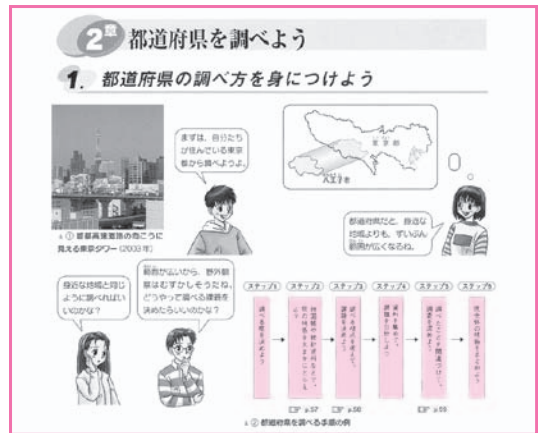
<ステップ3> テーマを設定

<ステップ4> 資料からテーマを分析

<ステップ5> 関連づけて調査

<ステップ6> 都道府県の特徴のまとめ

図表4 都道府県の調べ方



帝国書院『中学生の地理(初訂版)』p.56 *平成18年度用

第2時は、県勢要覧や「県学習用 埼玉県を調べよう」(帝国書院)などから、県章・県の花・鳥・木など、埼玉県のシンボルについて調査する。また、地図帳や「県学習用 埼玉県を調べよう」・観光案内・各種パンフレット・インターネットなどを活用して、埼玉県に関する資料や情報を収集する。

(4) 調査の視点

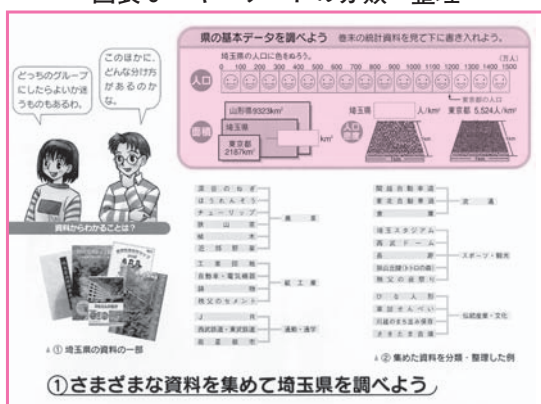
第3時は、第1～2時の学習活動を基に、「埼玉県」をイメージするキーワードを考え、カードに書き出させる。そして、このカードをグルーピングすることを通して、自分自身の調査の分野を明白にさせる。その際には、教科書p.58の都道府県を調べる視点や「県学習用 埼玉県を調べよう」p.3を活用する。

図表5 都道府県を調べる視点

項目	視点の例
自然環境に関すること	地形 土地の高低・低さ/大きな山や川、平野の位置/海岸線/埋立地・干潟/干潟の保全など 気候 気温/降水量/降雪量/雪の降り方/季節による気候/植物の種類/森林の役割など
人口に関すること	分布 大きな都市の位置/市街地の広がり/人口密度/人口の多いところ・少ないところ/人口の変化(増減など)/通勤・通学先など 構成 年齢別(14歳以下、15歳以上など)の人口の割合
地域間の結びつきに関すること	交通 鉄道、高速道路、空港の位置や変化/人やものの動きなど 国際化 外国とのかわり/国際協力/姉妹・友好都市など
生活・文化に関すること	生活・文化 人々の生活のようす/おもな祭りや伝統行事/名産品や有名な食べ物/家のつくり/ごみ問題など 歴史 県の歴史/おもな史跡/歴史上の人物など
経済・産業に関すること	工業 おもな工業製品/工業製品の内部/工場や工場団地の分布/おもな発電所や原料の仕入れ先/工場で働いている人の数/環境問題への取り組みなど 農業 おもな農産物/農産物の内部や変化/田や畑、果樹園の分布/緑地や森林の面積/おもな出荷先/農業の営/農業の営/自然と農業のつながりなど

帝国書院『中学生の地理(初訂版)』p.58 *平成18年度用

図表6 キーワードの分類・整理



帝国書院『県学習用 埼玉県を調べよう』p. 3

これらの作業により、調査する分野を「自然環境」「人口」「地域間の結びつき」「生活・文化」「資源・産業」の五つに設定する。

(5) 調査方法

第4時は、調査の視点と調査方法、まとめ方のイメージをもたせる学習を展開する。

さらに、第5～6時は、調査活動を実施した。特に、「学習は、個人からスタートして、個人にフィールドバックする。」ことを念頭におき、「埼玉県」の学習では、個別学習を主体とする。なお、同一分野を学習する生徒同士の3人以内のグループ化は、可能とする。ただし、資料調査係・記録係などの分担をさせ、各自の役割を明白にして主体的な学習が展開できるようにする。学習は、教室・図書室・コンピュータールームなど、個人の調査方法によって選択できるように時間割を工夫して、2名の教員が対応できる体制を整える。

なお、「身近な地域の調査」でフィールドワークに興味をもった生徒の中には、休日を利用して、埼玉県名発祥の地であり、辛亥鉄剣が発見された「さきたま風土記の丘」を訪問するなど、現地調査を実施することもすすめる。

図表7 さきたま風土記の丘



ところで、「県学習用 埼玉県を調べよう」の「地図の見方ポイント」と「あなたもチャレンジ」は、生徒の調査学習にたいへん有効である。まず、「地図の見方ポイント」は、①資料収集と整理、②都市と交通のかかわり、③自然と農業のかかわり、④工業の特色を調べる手がかり、⑤生活・文化を調べる手がかりについて、埼玉県の特色をとらえる上でのヒントを示している。次に、「あなたもチャレンジ」は、①テーマの設定、②資料の入手先、③調査方法、④調査内容について、分野の調査を方向づける記述がなされているからである。

【本校で実施した学習の資料入手先】

- ①久喜市役所、②埼玉県立久喜図書館、③久喜市立図書館、④埼玉県庁、⑤県立各資料館・博物館、⑥市町村立各資料館・博物館、⑦久喜市文化財展示室、⑧関東農政局など

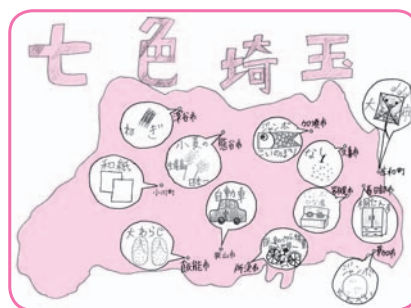
【本校で実施した調査方法】

- ①現地調査、②電話、③FAX、④インターネット、⑤メールなど

(6) 調査のまとめ

第6～7時は、調査のまとめを実施する。「埼玉県」の学習では、ポスターでまとめることとする。ポスターで表現する条件として、第1に、ベースとなる白地図に、埼玉県の特色として「自然環境」「人口」「地域間の結びつき」「生活・文化」「資源・産業」の五つから選択して、一つの視点または複数の視点を複合して表現することとする。第2に、埼玉県の特色を表すタイトルとして、キャッチコピーを必ずつけることとする。第3に、白地図を効果的に活用するように工夫する。これによって、文字とイラストによって埼玉県の地域的特色を効果的に表現する作品にすることができる。

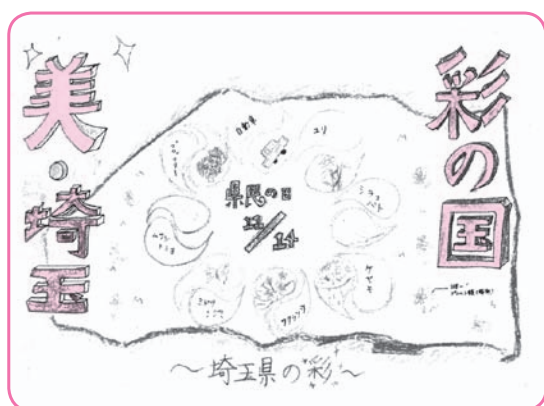
図表8 生徒作品（生活・文化編）



図表9 生徒作品（自然環境編①）



図表10 生徒作品（自然環境編②）



(7) 発表会

学習成果の発表会は、各生徒の作品を教室内に掲示することからスタートする。「自然環境」「人口」「地域間の結びつき」「生活・文化」「資源・産業」の五つのコーナーを設けて、それぞれの生徒の作品をグループ化して掲示する。その後、作品を見つめながら「社会科の表現としてのポスター優秀賞」を決定するために推薦書を書く。なお、社会科としての評価項目は、次の2点である。

<ポイント1> キャッチコピーが、埼玉県の特徴を効果的に表現している。

<ポイント2> 白地図を、効果的に活用している。

図表11 推薦書

「埼玉県のポスターコンテスト」推薦書	
年 組 番	[]
わたしは、社会科の「埼玉県ポスターコンテスト」において、次の作品を優秀作品として推薦します	
金 賞	氏名
観 点	キャッチコピー： A B C
評 価	白地図の活用： A B C

推 薦 理 由	
銀 賞	氏名
観 点	キャッチコピー： A B C
評 価	白地図の活用： A B C
推 薦 理 由	

教室での発表会終了後、社会科としての優れた表現の作品を「社会科生徒作品展」として、多目的室に掲示し、常時、生徒や保護者が見ることができるようにする。これによって、互いの作品のよさをみつけるとともに、次の機会に自分なりに工夫する点をみつけることができる生徒が増える。また、各月はじめに1週間行っている学校オープン参観などで、保護者に社会科学習の一環の作品を公開したり、さらに、公民館などで市内の中学校合同による「社会科生徒作品展」を開くこともたいへん意義がある。

4 おわりに

地域の特徴をとらえる調べ方、学び方を身につけさせるためには、系統的な学習計画を作成し、系統性を意識して実践していくことが重要である。そのため、本単元では、「身近な地域」「都道府県」「世界の国々」の三つの規模の異なる地域を関連づけて学習する系統性を重視した取り組みを紹介した。しかし、現実的には、地域の特徴をとらえる調べ方、学び方を全員の生徒に身につけさせることは、たやすいことではない。なお、生涯学習の基礎として、生涯に渡って学び続ける技能や能力を身につけさせるためには、内容的なまとまりや具体的な資料の提示されている「県学習用 埼玉県を調べよう」は、たいへん効果的な資料である。

今回は、中学校における「地域の規模に応じた調査」のプランを紹介した。今後、より一層小学校の地域学習の既習事項を生かし、中学校の地理的分野の学習に発展させるためには、「系統的な小中学校連携社会科指導計画」の構築が、必要不可欠である。